



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：国防軍需相のスーダン訪問 <参考>最近のイラン-スーダン関係 (3月6日付現地各紙)

スーダン訪問中のナッジャール・イラン国防軍需相は、フセイン・スーダン国防相及びアフマド・アル・ジリ (Ahmad Al Jili)・スーダン軍参謀長との会談を行った。

1. ナッジャール国防軍需相の発言

(1) イラン政府の優先的課題は、アフリカ諸国、特に自立したイスラム諸国と関係を拡大・強化することである。平和と安定、イスラムの連帯を支持することが、イランの国防ドクトリンの基本である。国防関係高官の相互訪問によりイスラム諸国間の防衛協力が拡大すれば、イスラム世界における恒久的な平和と安定を保障することが可能である。

(2) スーダンは、イラン・アフリカ関係の中心となる国である。スーダンとイランの文化的・宗教的類似性、地域・国際問題に関する認識の共有は両国関係発展に貢献している。今回のスーダン訪問によって、軍事技術及び訓練分野における関係拡大が促進されることを期待している。

2. フセイン国防相発言

(1) スーダンは国防を含め全ての分野でイランとの関係拡大を望んでいる。(地域の平和と安定の構築、イスラム諸国の連帯強化に果たすイランの建設的役割に言及しつつ)イランが、地域・国際問題について自らの原則的立場を守っていることを評価する。傲慢な諸国の圧力に直面しても、スーダンはイランを支持する。

(2) (国連安保理決議 1803 を非難し)原子力エネルギーの平和利用というイラン固有の権利を支持する。原子力エネルギーは口実に過ぎない。彼らの標的はイスラムなのである。

3. ジリ参謀長発言

スーダン国軍は、イランの貴重な経験を活用することに関心を持っている。イランは、スーダンにとって特別な尊敬の対象である。同国は、イスラム世界の防衛に努力しており、主要な地域・国際問題に対するその揺るぎない姿勢は賞賛に値する。

<参考> 最近のイラン-スーダン関係

2006-04-25

スーダンのバシール大統領はイランを訪問、ハーメネイ最高指導者と会談。

2007-01-31

イランのモッタキ外相は、スーダンを訪問、バシール大統領と会談。

2007-02-28

イランのアフマドネジャド大統領は、スーダンを訪問、バシール大統領と会談した。両大統領は、米国のイラク、レバノン、パレスチナ政策を批判。

2007-06-08

G8 諸国は、スーダンやイランが国連の要求を拒否し続けるなら更なる手段を擁護する姿勢を表明した。

2007-07-31

米下院議会は、イランとスーダンの主要セクターへの投資を停止した投資家に対して法的な保護を与える法案を通過させた。アメリカ政府は、イランによる核所有とダルフール危機を終わらせるため、両国の特定の企業との取引を制限している。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799